

PEOPLE OF KOBE ⑮

ブチック「エスター・ニュートン」経営者
神戸の国際的ロマンス
エスター・F・ニュートンさん

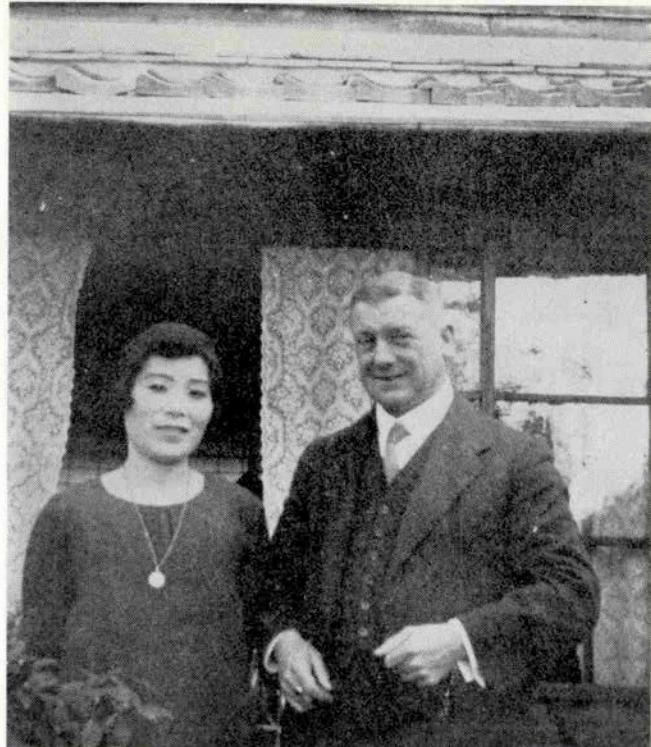
海と恋とヨツト

文・野口武彦 ▶エスター・F・ニュートンさん
〈神戸大学文学部助教授〉



トア・ロードに高級婦人服店「エスター・ニュートン」を経営するエスター・ふく・ニュートンさん。この女性にひとめ会つたら、だれでもそのみずみずしい若さに感嘆せずにいられないだろう。明治二十三年生まれの当年とつて八十歳。その年齢にしては若く見えるなどといふのではない。肌の若さ、表情の若さ、気の若さ。そして何よりも、一昔前の神戸を語る抜群の記憶力がエスターさんからほとんど永遠の若さといふに近いものを感じさせるのである。

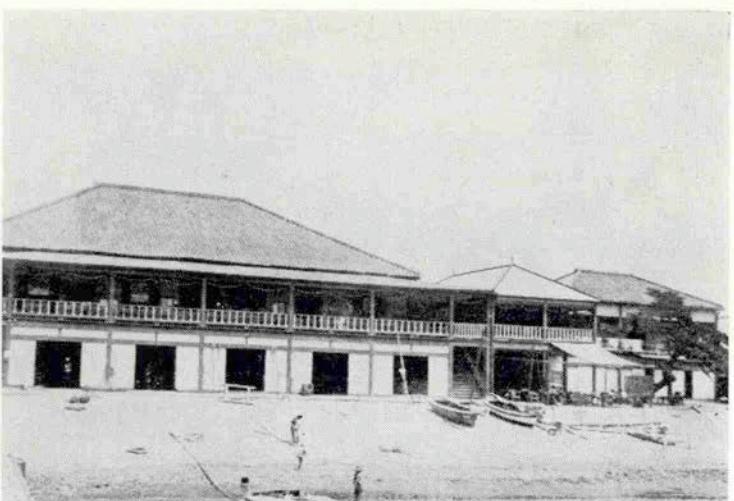
六甲の山腹に真夏の陽光がまぶしく反射し、浜には波紋のざざなみが黄金色の模様をえがく。白帆をいっぱいにふくらませて疾走するヨット。そしてその上では、口髭をたくわえた謹厳な表情のうちにもお国ぶりのユーモアをたたえた英國紳士が舵を取り、そのかたわらに楚々



ご主人といっしょに六甲の自宅で（35才頃）

名門の末裔に配するに佳人をもつてすれば、そこに一篇のロマンスが生まれないという法はない。二人のあいだに始まった交際は、すぐさま十八歳年上のアーサー氏を熱烈な求婚者に変える。ひ

と可憐な、しかも適宜にグラマラスな日本女性が寄り添っていた。——もちろんこれは、いまを去ること五十年の昔、神戸にまだほんとうの海があり、縦にかいたような白砂青松、海がまだ埋立地も工場排水も知らなかつた時代の話である。そしてこの順風満帆、青春のよろこびを載せて快走するヨット上の点景人物こそ、今日の主人公であるエスターさんとその故夫君アーサー氏の姿にはならない。エスター・ふくさんは、和歌山県日高郡の生まれ。ちなみにエスターとはふくさんのクリスチャン・ネームである。若くして、日露戦争の頃から下山手でホテルを経営していたという叔母さんをたよつて神戸に出て。時代はちょうど第一次世界大戦の前後、外交と交易の発展が、開港後まだ日の浅かつた神戸の町をいつそう国際都市らしくしていた頃のことである。たとえばいまの国香通りに、二頭立ての馬車を走らせるフランス人経営の馬車会社があつたという時代の話。その馬車屋さんの夫人のエレナ某の紹介で、二十代初めのエスターさんの前に出現したひとりの英国人があった。上海・インドを股にかけてウールの生地をあきなう貿易商のアーサー・W・ニュートン氏。歴としたロンドン生まれのこの紳士は、家系をたずねればかの万有引力の発見者、アイザック・ニュートンの血統につながるといふ。



ニュートンさんご夫妻が青春の日々を楽しんだ敏馬のポートハウス

周囲の反対を押しきつて強引にいっしょに暮しはじめた。いまはやりの同棲生活というやつのハシリである。しかし、現代からは想像を絶する偏見が支配していた時代のことだ。エスターさんがどれだけの精神的重圧に耐えねばならなかつたかは、思い半ばに過ぎるというものだろう。生まれてこのかた虚弱体质で神経質で、ほとんどの病的に纖細で、いつたいこの娘はいくつまで生きられるのかしら、と一家中の心配のたねだった気質が、この試練ですっかり癒つてしまつたとエスターさんはいう。

二人の熱意がついに家族にみとめられる日がきた。アーサー氏は、求婚相手の実家が要求するきびしい結婚条件をすべて受諾。かくして両人はめてたく英國領事館で挙式という運びになる。ときにエスターさん、芳紀まさに二十四歳。ことは大正初年に係る。それからエスターさんが五十三歳で夫君を失われるまで、人もうらやむ琴瑟相和の生活がくりひろげられることになるわけである。

アーサー氏の仕事は、毎年十月から四月までは遠く上海・インドに赴いて生地の約定を取りつけ、夏場は東洋汽船会社の二階にオフィスを構えて商品の輸入にあたるといつたものであつたという。だから、エスターさんの思い出の中にはいつも夏がある。開港当時から、在留外国人専用だった敏馬の砂浜。いまは沖に広大な摩耶埠頭の埋立地がひろがつて見る影もなくなつた海岸には、ボートハウスとヨットクラブがあつた。人も知るようになり、イギリス人にとってスポーツとは見て楽しむものではなくて、みずからするところのものである。愛妻エスターさんを載せたアーサー氏のヨットは、帆いっぱいに風を受け、波頭を切つて進む。へさきを洗うさわやかな潮のしぶき。気持よく頬をなでる海の風。雄渾に湧きあがる白い夏雲。めざす青木の浜はすでに手に輝いていり。——いまでも船が好きで好きでたまらず、豪華客船に乗りこんでの遠洋航海を夢見ているというエスターさんは、思い出の中の永遠の「夏」の回想に眼を細める。



▲現在のニュートンさん（トアロードのお店で）



▲当時では珍しい洋装で（27才）



▲30才頃

そろそろ婦人服店「エスター・ニュートン」に話をうつす順番である。意外なことには、いまから四十二年前にトア・ロードに店を開いたとき、エスターさんは洋装にも服飾にもまったく素人であつたという。なにしろ町の店の下地が、どうして若奥様の趣味仕事からかたちづくられることができたのか。じつはその陰にも、故夫君アーサー氏のこまやかな愛情があった。

ようやくかちとつた幸福な結婚生活は、エスターさんからそれまでのほりつめた気力を奪い、またぞろもの虚弱体质に戻してしまった。肺炎カタルに加えて神経衰弱。そこでアーサー氏の考えついたのが一種の逆療法だつた。心身のよわさを克服するために何か仕事をはじめた。あたかもよし、御主人の商売柄、良質のウールが入手できる。折よく、輸入服地の老舗が売りに出た。腕のよい仕立師を高級で雇い入れた。アーサー氏としては、当初は夫人の道楽として一回こつきりの出資のつもりだったらしいが、これが思いのほか軌道に乗つた。はるばる東京から、華族さまの元殿様のという客がつくまでになつたのである。とはいえエスターさん、店に来ていばる客があるたびにいちいち腹を立て、もう商売をやめるといつて泣いたというから、相当わがままな女主人だったにちがいない。

「エスター・ニュートン」が開店した当時のトア・ロードは、神戸の町の中でも特にエキゾチックな雰囲気をただよわせる一劃だったという。エスターさんの現居邸とその周辺だけをわずかに残して、空襲で炎上してしまつたこの街の、あの角にはモロゾフの店、佐治というシヤツ屋、桜井というゴルセット専門店、カリームというロシアの洋服屋……と、エスターさんの衰えぬ記憶力は、往古の町並みを銅板画のように復元する。そして何よりも惜しまれるのは、煉瓦作りの美しい英國風の教

会。ましてや、ピアノとオルガンの名手だったというアーサー氏が、日曜日ごとにオルガンを奏でたという教会だったとあれば、その追憶もひとしおだろう。かつてのトア・ロードは、また亡命ロシア人の多い町でもあった。そして神戸の市民たちにとって、夕食後の夜景をたのしむ散歩がこの町の名物だったという。遠い記憶のうちに点滅するはなやかなイルミネーション。

しかし、第二次世界大戦の勃発は、こうした二人の生活を一転して苦難のどん底に叩き落した。鬼畜米英なる標語が本気に叫ばれた時代である。ドイツ人や白系ロシアンたちがつて、まぎれもない交戦国の籍を持つた、当時の言葉でいえば敵国人のアーサー氏が、もしも言語に絶する迫害を受けずにすんだとしたら、それは過去半世纪にわたって海彼に向つてひらかれづけてきた神戸の土地柄のせいだった。いや、事実として国家からの迫害はあった。戦争中、重い心臓病にかかる動けなくなっていたアーサー氏と、その英國籍の妻であるエスター・ふくさんとは、敵国人として県外に出る自由を剥奪される。同じ理由で、食糧の配給も給付も日ましに削減されなくてはならなかつた。エスターさん持ち前の負けじ魂が發揮されるのは、こんな逆境のさなかである。エスターさんは禁足をやぶつて敢然と單身県外に買出しに出かけ、病床の夫君に食糧を持って帰る。そんなエスターさんの姿に重病の床に横たわつてもなおユーモアを失わなかつたアーサー氏は、妻の手をとつて感謝したという。身体のきかないアーサー氏のためには、頑丈な煉瓦作りの防空壕が掘られて



若き日の思い出を話すニュートンさんと筆者（トアロードの自宅で）

た。そして神戸一円を灰燼に帰した空襲の災火から、ニュートン邸が奇蹟的にまぬがれたのも、あるいはエスターさんの献身に天が感じたからであつたろうか。昭和二十二年一月二十一日、暗い戦争の歲月を生きのびたアーサー氏は、妻の看護に感謝しながら世を去つた。

服装には口やかましいイギリス紳士だった故夫君の薰陶よろしく、結婚してすぐ洋装の生活をはじめたエスターさんは、いまだに外出時には帽子を欠かしたことのないモダンな女性である。長年夫君にかしずかれたせいにかレディ・ファーストがいやみなく身について、今まで日本との男尊女卑の習慣が気に入らないという。

新婚当時は毎晩アーサー氏が髪を梳いてくれたといいう樂しいおのろけ。家庭では日英両国語がチャンポンで、たとえば夫婦の痴話喧嘩もアーサー民のゴモットモデスで妻が吹き出してケリがついたという思い出話。そしておいしい紅茶の淹れ方を得々と伝授してくれるエスターさんには、どこやら幼女の無邪気さがただよつていて。この女性にはまさしく喜寿童女の呼び名がふさわしい。

いや、間もなく米寿童女になり、やがては白寿童女としていよいよ若やいでゆくにちがいない。

わたしたちがニュートン邸を辞去するとき、エスターさんは客船で食事時間を知らせるというチャイムを鳴らしてみせて、楽しげにころころと笑つた。

おいしい紅茶の淹れ方を得々と伝授してくれるエスターさんには、どこやら幼女の無邪気さがただよつていて。この女性にはまさしく喜寿童女の呼び名がふさわしい。

いや、間もなく米寿童女になり、やがては白寿童女としていよいよ若やいでゆくにちがいない。

わたしたちがニュートン邸を辞去するとき、エスターさんは客船で食事時間を知らせるというチャイムを鳴らしてみせて、楽しげにころころと笑つた。

● 福祉時代の幕開けです。あなたも一冊ぜひどうぞ！

世界の福祉施設

欧米の心身障害者を訪ねて

橋本 明著 〈カラー 8 ページ、本文320ページ、定価 1000円〉

送料 200円



主な内容

各書店で好評発売中！

振替口座 神戸四五九六

- 神戸からシアトルへ
- クライシス・クリニック
- グッドウイル・インダストリーズ
- 里親発見活動
- フォースターグランドペアレント
- ファーストアベニュー・
- サービスセンター
- ボランティア・ビューロー
- レニア・スクール
- アメリカのグループホーム
- 病院におけるボランティア活動
- 砂漠の中の老人の町
- ボーイズ・タウン
- パーキンス盲学校
- スポック博士の子供博物館
- アビリティーズ
- ロンドンのバーナードホーム
- 奇蹟の町・ルルドを訪ねて
- コベンハーゲンの老人の町
- ベーテル——西ドイツの障害者
の町（ドイツ）
- ヘット・ドルブ——未来を拓く才
ランダのコロニー（オランダ）

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。神戸市生田区東町113の1 大神ビル8F TEL(331)2246

ニースから民族舞踊団がやつてくる！

五月一三日、「ラ・チアマダニッサルダ」という、ニース地方の伝統的な民族舞踊団40名が神戸にやってくる。

これは昨年十一月、ジャック・メド・ニース市長さんが来神した時、お祭りを通してニースと神戸との友好をすすめようと話し合い、その第一歩として今年の二月に神戸新聞社が親善使節として兵庫県美方郡温泉町の傘踊りグループ、鉄砲光三郎、望月美佐グループなどをニースカーニバルへ派遣したのをキッカケに、今度の第四回神戸まつりに神戸市と神戸新聞社がこの舞踊団を招いたもの。「ラ・チアマダニッサルダ」は、ヨーロッパ、ソ連、中近東などの大きなお祭りには参加しているが、東洋へは初めてで、もちろん日本へは初めての来日である。

人口40万のニースの町は、カーニバルの期間中は世界中から観光客が訪れ、百万人以上の人で埋まる。カーニバルの規模の大きさでも世界的に知られ、ヨーロッパ各国のお祭りのグループがパレードに参加し、二週間のカーニバルの期間中、コートダジュールのニースの町はカラフルな色彩と興奮に満ちる。

紺碧の地中海に望むニースからやってくるこの舞踊団は、五月十七、十八、十九、二〇日と神戸に滞在し、神戸まつりには中央祭典他、各地区の行事に参加するほか市民との交流が数多く計画されている。

「ラ・チヤマダニッサルダ」の神戸まつりへの参加は、国際色豊かな神戸のまつりを一層盛りあげ、今年のまつりの最大の呼び物になるだろう。



写真

右・左上ニースカーニバルの美女たち。左下カーニバルに出演した温泉町の傘おどり（神戸新聞提供）

49時間、お疲れさま

山陽電鉄月見山駅。四月一日午後八時二十五分。プラットホームにジーンズ姿の学生らしい三人が上つて来た。少し疲れた感じで、別々にベンチに腰を降ろす。

——疲れた？ そうでもない。慣れてるし（徹マンで）。

——眠れた？ ウーン、子守唄ではなかつたなあ……。

——結果として？ 面白かった。また、やつて欲しい。

ラジオ関西の開局二十二周年を記念して、三月三十日（土）午後七時から四月一日（月）午後八時まで、四十九時間ぶつ通しの題して「四十九時間超ワイドコンサート」が、ラジオ関西サウンドギャラリー（SOUND5）にて開催された。「よい音楽を聴取者へ！」をモットーとするいかにもラジ関らしい企画であつた。

開催に先立つて四十九時間缶詰めで頑張るチャレンジャーを一般から募集。結局四十三名が挑戦した。挑戦者は朝食の各一時間以外には絶対に外へ出られぬという厳しいもの。また、途中でいなくなつてもチェックできるようになんと随时点呼をとる。それも代返が利かぬように「サインをして貰い、入場の際のサイン」と一致しないとダメという筆跡鑑定法。警察なみだねえ。

4チャンネルのレコードコンサート、生演奏、公開録音に、C&W、ヒットパレード、ジャズと盛り沢山の内容。勿論、「春を呼ぶ特別電話リクエスト」もあつた。結果、三十一名が無事合格。S社の七万円もあるカセットコードを筆頭に色々な賞品が抽選で渡された。体力旺盛な年頃の挑戦者に比べて、一番疲れたのはお年を召した（？）プロデューサー。ご苦労さまでした。



▲「聞い」済んで電リクにて49時間の奪戦ぶりを報告しているのです

▲ナターシャセブンがやっている ▲よく頑張りましたね。ハイ、賞品をどうぞ



“ゼクリウイ・シー・モハメッド”（右から左へ）

ボク日本大好き！

☆モロッコからやってきたシー・モハメット君

モロッコのマラケッシュから珍しいお客様がやってきた。その名は、ゼクリウイ・シー・モハメット君（20才）。一月十日に来日して以来、鴨子ヶ原の中西勝画伯宅に住み込んで、「何でも見てやろう」のモロッコ版ばかりに一人で日本の各地を歩きまわり、おぼえたてのかタコトの日本語で愛嬌をふりまき、もつか人気上昇中。「ジヨージ・チャキリスに似てるわ！」という女の子の噂もチラホラ。

妻がマラケッシュに六ヶ月間滞在していた時の大家さんのご子息がこのモハメット君で、日本にあこがれ、日本語を学んで今度の一人旅が実現したもの。

「日本人みんなよい人、親切です。日本の料理たくさんあって世界で一番きれい。私、何でも食べます。サケタバコ、豚以外はね」食べ物に好き嫌いはないそうで、鳥羽に行った時は生まれてこのかた食べたこともない貝をむさぼり食べたといふ。

そもそも中西画伯とモハメット君との出会いは遠くアフリカの砂漠の町マラケッシュに始まる。昨年、中西夫・夫人といっしょに織物を織つて暮している。「ジュラバ

الزراوة

ン」と「サラハーム」という衣裳を手にとつて「これ、みんな手で織りました。モロッコの物、みんな手づくりです。このジュウタン（5m四方ぐらい）も手づくりです」と嬉しそうだ。

三月十五日には「真珠の小箱」という番組に民族衣裳を着て初のテレビ出演。よほど嬉しかつたらしく、「見ましたか？」、「見ましたか？」と何度も尋ねる。「残念でした。見ませんでした！」というと、「アッ、ソー」といかにも残念そうなり。

彼の一家は厳格な回教徒で、おじいさんは20年前にマラケッシュからサウジアラビアのメッカまで二年がかりで歩いて巡礼の旅をしている。最近は交通の便もよくなつたので、モハメッド君は歩く代りにちやっかりと飛行機で今年の一月にメッカ詣をすませてしまった。

モロッコ人は非常に音感がすぐれていて歌がうまいそうだが、モハメッド君はマラケッシュの歌のチャンピオ

ンである。三才の時から歌を唄いはじめ、今ではアラブ諸国の人々が二二〇〇種類もおぼえているというからたまげてしまう。

「私、新しい歌よりも古い日本のリズム好き。三日ぐらいで日本の

歌、日本語で唄えます」という彼は、三月二十三日、オリエンタルホテルでの神戸っ子酒まつりで、「風のあるバルコニーで」という歌を日本語で堂々と唄いまくった。この歌は日本人が作詞したものを、彼が作曲し、アレンジしたものだそうである。

五月十日からは年一度のマラケッシュの音楽フェスティバルが始まり、人口二〇万のベルベル族のこの古い都是町全体が柵のない劇場になつて湧きかかる。モロッコ人の魂が一番燃える時だ。五月十一日に三ヵ月間の滞在を終えて帰国するモハメッド君の日本語の歌声が、青く澄みきつたマラケッシュの空にひとときわ高く響きわたる日も近いことだろう。



▲酒まつりで歌を唄うモハメッド君

▲中西画伯（マラケッシュのモハメッド家で）

来神早々、空手の練習をする
▲モハメッド君

◀新装なった中西画伯の自宅前で



神戸のアーバンデザイン

『新旧比較シリーズ』③

⑥

海岸通りの建築物

水谷頴介+チーム・UR



明石町(写真上)から海岸通り1丁目(写真中上)2丁目(写真中下)3丁目(写真下)までにある古いが立派な建築物

●海岸通りは、かつては、港神戸の代表的大通りでした。港に面した町の顔でもあったわけです。船会社・外国銀行・船具会社などがずらりとつながって、そこには大通りの並木と明治の洋風建築のブルバードもあったわけです。港が大きくなり、町と離れて、東へまた沖へと出ていってしまうにつれて、また昨今では、高速道路が頭上をおおいかぶさるにつれて、その機能と雰囲気は失われてしまつあります。しかし、この通りには、かつての繁栄を物語ってか、手のこんだ立派な建築物が並んでいます。残された一つ一つの立派な石張りの建築物をゆっくり眺めてみてください。ちょっと内へ入ってみると、吹抜けのあるどっしりとした階段ホールがひかえています。そこにはひとつひとつ、明治以来の港神戸の思い出が宿されています。まだ今なら、歩道をぐっと広くして、大きな街路樹を植える手だけさえ施してくれればこれらの建築群と重なりあって、ここは再び堂々たる港神戸の代表的町並みとなってよみがえるでしょう。ほっておけば、古くさい味のない性格のない町として受け取られてしまって、これらのまだまだ使いづけられるべき建築群が無造作に壊されてしまって、どこにでもあるバラバラのベンツルビル通りになってしまうでしょう。古いものはよくて、新しいものはすべて悪い、といっているのではないのですが、今建てられているようなペラペラの新しいものがあと20年、30年たったら、どうなると思いますか。その時100年も生きつづけてきた石の古い建築群と、鉄とコンクリートの30年組の違いがはっきりして、「しまった。もったいないことをした」という後悔になることうけあいなのです。

(水谷頴介)

神戸のモダンリビング
△新しい町屋
水谷頼介+チーム・UR
⑤
⑥

●神戸に住んで仕事をしている人ならば、古い異人館を仕事場にしたいな、と思いつづけている人が、沢山いらっしゃることだと思います。しかし今は、その可能性はどんどんなくなっています。なにしろ、どんどん壊されてしまっているのですから、対象そのものが希少なのです。だから、それを実行できている人たちは、まったく幸福な人たちだ、といえるでしょう。異人館は適度に大きく、適度に大きな部屋があります。ここを仕事場にすることの良さは、まず全体としての自己確立性（アイデンティティ）があります。もし、それをたまたま貸借していたとしてもオフィスビルのような間借り的感覚はありません。自分の仕事の個性を建物すみずみまで確立することが出来るので、サラリーマン的与えられ仕事でなく、精神的にのびのび仕事を楽しむことができます。住い的情緒が基礎にあるため、仕事に通ってくる、まったく仕事のための仕事ということではなく、そこにどんどん腰を落着けた自分の好きな仕事をのびのびと、ということになります。

●自己完結性は、ひいては、その伸展性にもつながります。一軒の家は、使いようで少々どうにでもなります。これも貸ビルの床とは違います。適度に大きな部屋で、数人ずつあるいは一人で仕事をするということは、精神のプライバシーとともに、仕事の個性をはぐくんでくれます。各部屋の仕事がバラバラになってしまわないための交流の場所として天井の高い居間——サロンが活躍してくれると思います。台所の活用も仕事によき作用をもたらします。自分たちの好みのお茶、夜業の時の食事は、わびしい喫茶店のお茶や出前の食事より優れていることは、もちろんです。徹夜ともなれば、固い床のオフィスビルに比



▲ シップチャンドラーC商会異人館の1階の事務所



▲ 同上異人館の2階の客室

して、だんせんいいことはわかっています。庭があることも、綠に疲れをいやし、休暇時の体の運動になじみます。トイレ、これがまたオフィスビルの大洗面所や、ベンシルビルのみみちい便所に比べて、心休むこと……。

●超高層オフィスビルの林立だけが、仕事→経済の発展のパロメーターでないことを、こういった仕事場の蓄積が教えてくれるでしょう。新しい異人館——こういった仕事場がもっと神戸にほしい、それが希少な異人館をはずれた人々の願いのはずです。（水谷頼介）

☆神戸を福祉の町に(5) 上のマークは車イスで使用できる箇所にはられる国際シンボルマークです。



あなたも里親家庭に

橋本 明

神戸駅前の湊川神社の西、神戸市社会福祉センターの二階に「家庭養護促進協会」という小さな民間の福祉機関がある。今から12年前の昭和37年に誕生した、日本では他に例のない民間の里親開拓機関で、神戸新聞や毎日新聞（大阪版）に「あなたの愛の手を」という記事を毎週一回掲載し、里親希望者を募っているのでご存知の方も多いことと思う。

里親というのは、さまざまな原因で家庭生活をおくれない子供たちを、その親に代って別の家庭で養育する人たちのことをいうのだが、現在アメリカでは家庭に恵まれない児童の72%が、イギリスでは85%が里親家庭で育てられている。ところがわが国ではわずか18%にすぎない。欧米では「児童は家庭で育てるべきである」という原則にもとづき、「里親制度は、家庭を離れた児童にと

つて、もつとも望しい保護を与えるものである」とされ、また、ロレッタ・ベンダーの「最悪の家庭といえども最良の施設に優る」という家庭第一主義の思想に裏打ちされて里親委託が推進されてきたのだが、日本では従来児童福祉施設が児童養護の中で大きな位置を占め、里親開拓も児童相談所だけがその窓口であつたりしたため、別表のように里親制度は伸び悩んでいる。

前述した「家庭養護促進協会」が発足して以来、昨年三月末までに大阪と神戸での里子委託数は八〇五人にものぼるのをみても、こうした民間の積極的な里親開拓機関がもつと多く日本の各地にあれば里親数もかならず伸びるものと思われる。

「しかし、里親の数だけが単純に増えればそれでいい」というものじゃないんです。たとえば見方を変えれば、

アメリカのように里親が増えていられない崩壊家庭が増えていると、いうことになりますからね」と事務局長の伊藤友宣さんはいう。

ところで、神戸市児童相談所の



活発でリーダー格



カット・大村恒山

神戸新聞に毎週一回掲載されている「あなたの愛の手を」の里親募集記事

里親委託ケースをみてみると、里親委託の原因として、未婚の母、遺棄児、父母就労、父母病気、父母離婚、母家出、家庭不和、母死亡などとなつており、未婚の母や遺棄ケースが多くなつてている。一方、里親希望者のうち80%は「子

ゼロ座標

元気す

かわいい

年次別里親の状況（各年度末現在）

	登録里親数	児童を委託している里親数	委託児童数
昭和26年	10,013	6,106	6,796
27	11,740	6,840	7,536
28	13,288	7,271	8,041
29	14,948	7,816	8,633
30	16,827	8,370	9,169
31	17,836	8,479	9,348
32	18,498	8,537	9,478
33	18,696	8,526	9,489
34	18,914	8,095	8,936
35	19,022	7,751	8,737
36	18,985	7,545	8,664
37	19,275	7,332	8,337
38	18,773	6,980	7,952
39	18,593	6,567	7,420
40	18,230	6,090	6,909
41	17,076	5,742	6,511
42	16,115	5,219	5,977
43	15,660	4,786	5,501
44	14,907	4,419	5,054
45	4,807	4,328	4,975

(注) 厚生省報告例より。なお、45年度の数字は6月末現在。

上の表は年次別にみた里親の状況であるが、昭和33年を頂点として、児童を委託されている里親および委託児童の数は減少の傾向にあり、45年には5000人を割っている。これは、登録里親の絶対数の減少もさることながら、登録里親のうちで児童を委託されていない里親に問題があると思われる。

りも壊れない家庭をつくることの方がより大切なのではないだろうか。

社会福祉の考え方が「治療から予防へ」と変りつつあるのも、多種多様に複雑に絡みあった現代社会の問題を単なる対症療法だけでは解決しえなくなってきたからであり、教育・文化・住宅・環境などのあらゆる分野から総合的に考えていかねばならなくなってきたからだ。里親保護一つをとりあげても、それは現代社会のあらゆる問題につながっていく。

ところでの日本では伸び悩んでいるこの里親制度をより充実したものにしようとして、東京都ではこのほど「養育家庭センター」を設け、里親の開拓に力を入れはじめている。これは最近になって親の離婚や家出、未婚の母などの急増のため、親の手もとで育てられない乳幼児が増えてきたが、こうした小さな乳幼児たちは、大きな施設で集団で育てるよりも、できるだけ一般の家庭で育てる方がよいという考え方からこのようなセンターガーが設けられるようになつたようであるが、お役所がこのように里親の開拓に力を入れるようになつたのは遅ればせながら嬉しいことだ。

伊藤さんは今の仕事を本当によりよい充実したものにしていくためには、どうしてもこの「親」の問題をもっとよく考え、親のための相談機関を充実していくことがどうしても必要だと強調する。

今のような社会では人間の絆というものはますますものになり、家庭はどんどん壊れていってしまう。そこからこぼれおちた子供たちをすくいあげて里親に委託していたのではとうていおつかなくなつてくるし、今までたつても要保護児童は減つてはこない。それよ

家庭に恵まれない子供たちを引きとつて、愛情と熱意をもつて親代りに育ててくれる家庭を増やしていくことは、さまざまな問題はあるにせよ、施設一辺倒の日本の児童福祉対策に新しい方向づけを与えるものとして大いに力を入れてほしいものである。

神戸遊戯誌 127

★壁を使って楽しむ 最新式スポーツ

ハンド・ボールといつても、このハンド・ボール(フォア・ウォールズ＝四壁式)はこの欄の第二百二十三、四回で紹介したドイツ製の同名のものとは違い、一人か二人ずつだけで全く違う方法で対抗ゲームを行なう、わが国では全く新しい球戯である。生まれはアイルランドでその後アメリカへ輸入され、一九〇九年以後盛んになり、現在アメリカの国技といわれるぐらいはやっているが、日本へ輸入されたのはおそらく戦後で、というのはハッキリしたことがわからぬからで、西脇 要氏(神戸YMCA体育主事)の話によると、現在のよう日本で室内球戯となつたのは十年前からだが、それ以前かなり古くから戸外で行なわれていた形跡があるからだ——という。ゴルフの球よりひと回り大きいゴム製の硬質の球を使

つてラケットかグローブ(羊皮)でゲームをする点はちょっとテニスに似たところがあるが、壁を使う点が独特である。なお、ラケットはテニスのものより柄が短かい。

また、この球戯には審判がいないのもテニスやピンポンと違つている。これは瞬間でゲームがきまるケースが圧倒的に多いからだが、そのため罰則等もプレーイヤー自身が判定しなければならず常に相手方に礼を失しない心掛けが必要となる。だから当然、他の球戯以上に公平性と社会性と同時に自尊心が大切とされている。

次ぎにまだ多くの人々には知られていないと思われるこの新しい球戯のあらましを紹介しよう。まずコートは一壁式と四壁式の二つがあるが、わが国をはじめ各国では現在四壁式が多い。四面に壁を持つこのコートの広さは長さ四六フィート、幅二二フィート、高さ二二二フィートで床にはショートライン(前の壁とうしろの壁の中間)とサーブライン(ショートラインより五フィート前方)その他のラインが白ペンキで引かれている。四壁式



「サーブいくわよ！」
と佐々都司子さん
(上) 皮手袋をはめて
まさしくハンドでボーラーを打つ
(中) 後の壁からくる
ボールに挑戦！
(下) 「ボールをよく
みろよ」



神戸YMCA体育リーダー草野修さん
神戸YMCA体育主任西脇要さん
神戸YMCA体育リーダー大山辰弘さん

ハンド・ボール
(フォア・ウォールズ)

青木重雄

も一壁式も試合のルールは同じで、共に一回のゲームは二点で三回戦を行ない、勝敗をきめる。まず、サーバーがサーブラインに立つてワンバウンドしたボールを前の壁に打ちつけ、レシーバーは同じくはね返ったそのボールをワンバウンドかノウバウンドで自分の思う壁へ打ちつける。以後は同様の壁を通じての打ち合いがつづけられる——つまり、テニスのいわゆるラリー戦がつづくわけだ。この場合サーバーの球が規定ライン内の外に落ちたり、レシーバーがツウバウンドで打ち返したり、からだに当てては失点。その他数多くのルールがあるが、この点についてはここでは記さない。くわしく御希望の人は神戸Y.M.C.A.(生田区加納町二丁目、電話)二四一一七二一〇番の西脇主事あてに教示を求めていただきたい。さて以上のようなやり方で試合の行なわれるハンドボールは常に激しい敏活さと速力、バランス、精確さと忍耐が要求されるところから一ゲーム(約十五分間)を終えるとすでに汗ビッショリ。ラリーは数回ぐらいたが普通だが、好試合となるとこの連続で一試合(三ゲーム)が終わるとからだはヘトヘトになる。ボールが直接からだに当たると痛いほどだから練習でボールの扱いを充分マスターすると共に強力なパンチボールを得ることが必要である。だれでもすぐにおぼえられ、上手になるほど巧妙なプレイができるし、思うところにボールがさばけるようになって心から楽しみつつプレイできるようになれるが、そのためには自分で練習を重ねること以外にうまいプレイヤーを常に見て彼らのすぐれた点を取り入れみずから技術を磨くことも大切である。

前に書いたようにこのスポーツは我が国ではまだ新しい分野で現在正式のコートは東京Y.M.C.A.体育館(一九六四年設置)と神戸Y.M.C.A.体育館、K.R.A.C.(神戸外人クラブ)のわずか三つである。建築費が高くつくこと一つの原因で採光、ボールのはね返りの完璧さを保証する壁や床、その他コートとしての完全無欠性が求められるため簡単には作れない。その点大流行のアメリカで

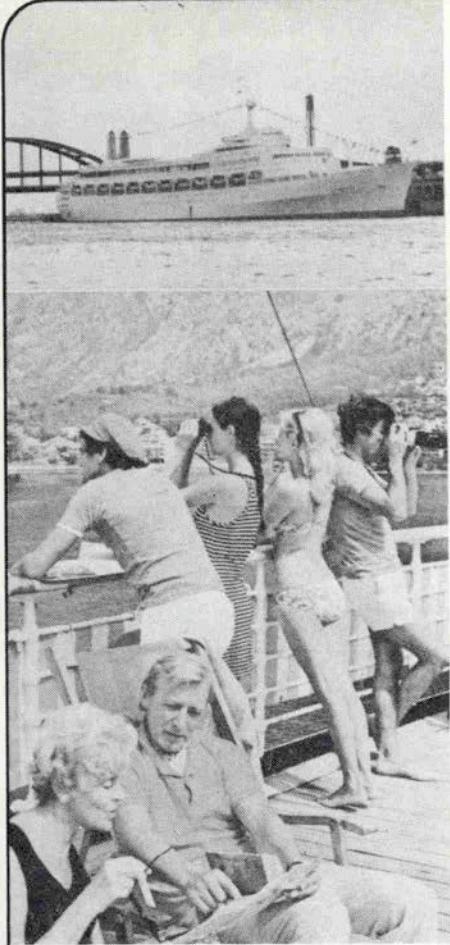
は全国各地にコートがあり、何十万人という男女ファンがこの競技を楽しんでいるが、瞬間的で激しい動作が必要なりに中、高年者が多く、四十歳から六十歳代へかけてのファン数がめだつて多い。もちろん若い人々も多いが、慣れてこの球戯のダイゴ味がわかると年齢を越えた楽しみが味わえるためいつまでもつづけられるわけだ。若い人のプレイぶりがスピード本位、年長者がコントロール本位の差は当然あるが……。全米ハンドボール大会が年に一回あるのをはじめ各地域ごとの地方大会が多いのも隆盛ぶりを反映している。

イギリスでもチャンピオンシップ制度があり、アメリカについて盛んだが、その他ニュージーランド、フリーリン、オーストラリアなどで行なわれている。だが、まだテニスやビンボンのような世界的な組織がなく、今後の課題として残されている。

「公式のコートを二つも持つわが神戸は四壁式ハンドボールのメッカともいってよいわけですが、いま一つ宣伝が不足のため神戸Y.M.C.A.の現在のプレーヤーの数はわずかに十二、三名です。私と体育リーダーの草野修、大山展弘民の三名を除くと一般のファンはわずか十名ほどで、年齢は小学校三年生から六十歳代まで女性は數名。だが、みな熱心で一度やるとやめられぬと汗をビッシヨリかいてプレイしています。

短時間にスポーツの爽快な気分を味わえるのと、とくに心臓と肝臓のためによいのがこのゲームの特徴です。東京Y.M.C.A.でもまだ百数十名ぐらいたのファン数のようですが、そのうち全国的にもふえてくると期待しています。神戸Y.M.C.A.では初心者のコーチは充分させてもらいますし、道具も貸しますし、コート使用料も四十五分間百円ですから、どしどし気軽にプレイにやつて来てください」

とは、西脇氏の弁である。



■初夏に旅出つロマンのキャンベラ号夢の船旅

神戸っ子'74 地中海クルーズ 募集!

船キチの神戸っ子編集部が、アイデアをこらした地中海
キャンベラ号の船旅と南欧・パリの旅。

今、ヨーロッパでは地中海の船旅に人気集中。ぜひぜひ
ご参加下さい。楽しい船旅をご一緒に……。

1974年

●エスコート……本誌／小泉美喜子

6月25日～7月13日 ¥520,000 定員15名

キャンベラ号の船室2人部屋シャワー付(船室により価格変化あり)

募集締切は、5月末日迄 早急にお申込み下さい。

日数	日付	場所	時間	フライトNo.
1	6月25日④	大阪 発	18：30 (19：25) J L 124	P. M. 5時集合
		東京 発	21：45	A F 273 (エールフランス)
2	6月26日⑤	パリ 着	06：30 (13：10) A F 527	キャンベラ号乗船
		バルセロナ 着	14：40	キャンベラ号下船
3	6月27日⑥			〈船旅は9日間〉
4	6月28日⑦	ナボリ		
5	6月29日⑧	エルバ		
6	6月30日⑨	カンヌ・ニース		
7	7月1日⑩	マラガ		
8	7月2日⑪	美しいジブラルタル海峡を通過		
9	7月3日⑫			
10	7月4日⑬	ビゴ		
11	7月5日⑭	オポルト 発	12：20	T P 105
		リスボン 着	13：00	
12	7月6日⑯	リスボン		
13	7月7日⑯	リスボン 発	10：20	I B 078
		マドリード着	11：20	
14	7月8日⑯	マドリード・トレド		
15	7月9日⑯	マドリード 発	07：40	A F 510
		パリ 着	09：40	
16	7月10日⑯	パリ		
17	7月11日⑯	パリ		
18	7月12日⑯	パリ 発	16：30	A F 274 (エールフランス)
19	7月13日⑯	東京 着	18：20 (20：40)	J L 129
		大阪 着	21：35	

●お申込み・お問合せは

月刊 神戸っ子編集部

神戸市生田区東町113の1

大神ビル8F ☎331-2246

担当 小泉美喜子 迄

ドットウェル トラベル サービス

神戸市葺合区磯上通8-9-6

〒651 (神戸明治生命ビル)

電話 神戸 (251)0021番(大代表)

大阪市西区靱1丁目102

〒550 (辰巳ビル1階)

電話 大阪 (443)8721番

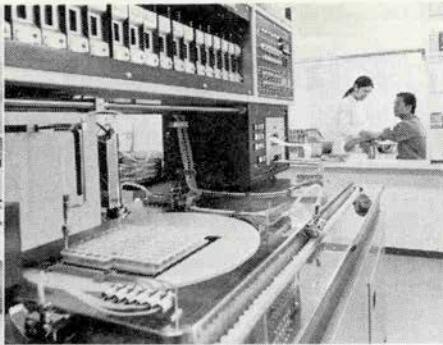
年に一回は来ます

●5月のルポーター 桐 晴夫

(キャンティ・マスター)



三木院長が「軽い胃下垂に注意して」



血液検査をうける桜さん

八時起床。前夜の飲みすぎと睡眠不足で戸外の日差しが目に痛い。車をとばして丸山の健診センターへと急ぐ。

午前九時到着。

美しい白亜の病院はまるでホテル。只違うのはロビーで待つ人々の何か不安そうな表情には矢張り病院らしい緊迫感がある。待つ程もなく検査が始まると、担当の看護婦サン達は手なれた感じでおだやかな印象が非常に良い。胃腹部検査のバリュームを飲んで全身を揺り動かしてレントゲン写真を撮られるのは矢張り良い気持ちではないが、最後に三木院長よりスライドで幼時に患った十二指腸カイヨウの古い疵跡を見せられてさすがに、とうなづけた。

心配した眼底検査も異常なく、強いていえば胃下垂で食生活に気を付けるよう注意された。二十年、アルコールを飲みつづけてきた私にむしろ肝臓や腎臓障害がないなんて不思議で、でも年一回は来ますと院長に約束して外へ出た時は午後一時過ぎ。初夏の太陽の中でおもわず深呼吸して明日へのための健康がどんなに大切なものかをつくづく感じた。

丸山病院 健診センター

神戸市長田区丸山町3丁目20
TEL 神戸078(642)1131(代)

午前9時～午後5時

★3時間ドックとは？

「気軽に成人病健診」と、兵庫県下ではじめてのコンピュータによる健康診断センターが、神戸市長田区丸山町3、丸山病院(三木徹院長)に昨年五月に完成。

現代人にマッチしたスピーディなシステムが人気となって、モーレツサラリーマンや、家族ぐるみの検診者が増えている。

健診は、血液、尿の検査。胸部X線、胃部X線。身長、体重、視力、血圧、眼圧の測定。心電図、心拍数解析、聴力、肺機能、眼底検査など六十六項目が全部自動的に進められ、コンピューターによつて二日かかったものが三時間ですむ。費用は二万八千円「三十五歳以上の人はずひ年に一度うけましょう」と呼びかけている。